

科目名 (英)	情報技術基礎 Fundamentals of Information Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	原田 美穂・花塚千恵美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	原田 美穂・花塚千恵美						
目的	安全にインターネットを利用できる技術を習得する。PowerPointを利用し、効果的なスライド作成の技術を習得する。						
科目概要	授業の前半では、新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点について、Webメールの活用法を事例を通じて考え、後半では、PowerPointの基本的操作を学び、聴衆者に伝えることを目標にレポート作成をする。						
到達目標	・Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基本的な操作ができる。 ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基本的な知識や注意点を理解し、正しくWebメールを活用できる。 ・PowerPointを利用し、聴衆者に伝えるレポートの作成ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験(課題提出)を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	e-learning(インターネット上のテキスト)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 e-learning(インターネット上のテキスト)で次回講義までに 不明な操作を確認しておく		
参考図書	なし						
特記事項	テキストには、専門学校 の学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/9)	＜CCT入門1＞ タイピング基礎を身につけ、 Windowsの基礎的な操作ができる。	講義	タイピングの基礎と測定をする。 Windows(Word、Excel、PowerPoint)の基礎的な操作をする。
2	＜CCT入門2＞ 情報やWebメールを正しく活用できる。	講義	Webメールの使用方法を知る。 インターネット情報の理解と、安全な使用方法を知る。
3	＜PowerPoint1 基本操作＞ プレゼンテーションソフトの 基本操作ができる。	講義	レベル(インデント)の設定や、行頭文字を操作することができる。 ノートの作成や、スライドショーを実行することができる。
4	＜PowerPoint2 表現力を上げる＞ 図形や画像を活用したスライドを 作成できる。	講義	ワードアートの挿入、画像の挿入、テキストボックスの挿入、 図形の作成と調整ができる。
5	＜PowerPoint3 動きを付ける＞ スライドに動きを付けスライドを 完成する。	講義	画面切り替え効果の設定、アニメーション効果の設定ができる。 リハーサルをする。
6	＜PowerPoint4 発表＞ 作成したスライドを使って発表できる。	講義	発表をする。 リフレクションをする。
7	＜PowerPoint試験対策＞	講義	学習した全学習内容の復習操作をする。
8 (6/27)	＜PowerPoint試験＞	講義	規定時間内に指示された内容のレポートを作成することができる。

科目名 (英)	造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 絵里
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	大学と大学院で美術教育について学び、美術専修免許を取得した講師が、デッサンや造形、デザインなど、歯科技工に役立つことはもちろん、日常生活の様々な場面で役に立つ形態の捉え方の授業を行う。						
目的	デッサンや粘土造形を通して形態の捉え方や、立体的な形態の表現力を習得する。						
科目概要	デッサンでは、ディテールのあるものを描くことで立体感や緻密に描写する感覚を修得し、立体造形ではモチーフの持つ丸みやボリューム・バランスなどを捉え、これらの実習を通して立体的形態の表現力を養う。						
到達目標	・物の形や色を正確に捉えて表現することができる。 ・立体的な表現方法を身につけることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 授業時間内に仕上がらない作品は次回授業までの課題とする。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	プリント(補助教材)を随時配付する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/13)	デッサン(基本形態)	演習	○△□の鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写を理解する。
2	デッサン〔空き缶・空き瓶〕	演習	空き缶・空き瓶を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
3	デッサン〔前歯部 口腔内〕	演習	自分の口腔内写真を観察しながら、前歯部口腔内デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。 前歯形態の特徴について理解する。 歯列弓のタイプについて理解する。 正中線、咬合平面等について理解する。
4	デッサン②〔前歯部 口腔内〕	演習	自分の口腔内写真を観察しながら、前歯部口腔内デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。 前歯形態の特徴について理解する。 歯列弓のタイプについて理解する。 正中線、咬合平面等について理解する。
5	鉛筆デッサン〔野菜〕	演習	野菜を観察しながら鉛筆デッサンを行う。 鉛筆を使用した立体感を表現するための描写技法を理解する。
6	デッサン色づけ・粘土造形①〔野菜〕	演習	野菜を観察しながらデッサンに色づけを行う。 水彩絵具を使用し、立体感を濃淡で表現する技法を理解する。 モチーフの寸法やバランスを正確にとらえる。 表面性状についても細かく観察し、表現する感覚を身につける。
7	デッサン色づけ・粘土造形①〔野菜〕	演習	野菜を観察しながら粘土造形を実寸大で製作する。 モチーフの寸法やバランスを正確にとらえる。 表面性状についても細かく観察し、表現する感覚を身につける。
8 (7/8)	粘土造形色づけ	演習	野菜を観察しながら粘土造形に色づけを行う。 水彩絵具を使用し、立体感を濃淡で表現する技法を理解する。

科目名 (英)	キャリアデザインⅠ Career DesignⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	現場での知識や経験が豊富な歯科技工士教員を中心に授業をすすめて行く。人の中で生きることの基礎となる”コミュニケーション”技術を、一緒に学ぶ仲間とグループワークを通して習得できるよう授業を展開していく。						
目的	自己信頼を身につけるために、自己理解と他者理解を積み重ねて、コミュニケーション技法を習得する。						
科目概要	自己理解、他者理解、自己信頼を育てる為に、言葉を使って自分なりに考え、他者と考えを通じ合わせ「聞く」「話す」「読む」「書く」をグループワークを通じて理解する。						
到達目標	・聞く、話す、読む、書くの4つの技法を用いて、医療従事者として問題を解決できるコミュニケーション力を身につけることができる。 ・自己理解、他者理解を積み重ね、自己を信頼できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	キャリア教育総合研究所～めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 ・グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/8)	3つの習慣	講義	夢を実現するための『3つの良い習慣』 良い習慣、悪い習慣を知る。				
2	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
3	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
4	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
5	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
6	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
7	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				
8 (9/11)	卒業生講演	講義	歯科技工業界で活躍する卒業生や業界人を招いて学生時代から現在までの経験を講演していただく。 講演から自身の将来像のイメージを高める。				

科目名 (英)	歯科技工学概論 Compendium of Dental Technology Science	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。						
目的	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性、歯科技工物についての概要を理解する。						
科目概要	日常的に歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の名称及びそれらの役割を理解する。 また、歯科技工士が製作する基本的な歯科技工物の名称とその役割を理解する。						
到達目標	・歯科技工用機械・器具・材料の名称や役割について理解する。 ・歯科の二大疾患の名称をその治療方法を理解する。 ・基本的な歯科技工物(補綴装置)の種類やそれらの製作方法について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	入学前から始める！歯科技工の基礎知識 (滋慶教育科学研究所)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時 講演終了後、レポートを提出すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/15)	歯科技工用機械・器具・材料－1	講義	歯科技工用機械・器具・材料について、実物を確認し、写真を用いて理解する。				
2	歯科の二大疾患とは？	講義	歯の代表的な病気、虫歯(う蝕)と歯周病について理解する。				
3	歯科の二大疾患とは？	講義	歯科の二大疾患の原因と治療法について理解する。				
4	補綴装置の種類	講義	口の中(口腔内)で使用する各種補綴装置の種類を知り、それらの特徴を理解する。				
5	補綴装置の製作順序	講義	口の中(口腔内)で使用する各種補綴装置の製作方法を知り、それらの製作手順を理解する。				
6	歯科技工用機械・器具・材料－2	講義	歯科技工用機械・器具・材料について、実物を確認し、写真を用いて理解する。				
7	まとめ講義①	講義	歯科技工用機械・器具・材料の名称や役割、歯科の二大疾患の名称をその治療方法、基本的な歯科技工物(補綴装置)の種類やそれらの製作方法について復習し理解を深める。				
8 (5/2)	まとめ講義②	講義	定期試験にむけて、各グループワークを通じて適切な勉強方法について知ることにより、より理解を深める。				

科目名 (英)	歯の解剖学基礎 I Dental Anatomy-Basis I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講期間	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教員歴も長い教員が歯科技工士に必要な永久歯の知識について分かりやすく授業を行う。						
目的	1本の歯が上下左右どの位置にあるのか判断できるようになるために、歯に関する専門用語と歯の観察方法についての知識を習得する。						
科目概要	歯や口の中を歯科技工士がどのように観察し、表現するのかを、専門用語や永久歯の形態的特徴を捉えながら、実際の口腔内や模型で理解する。						
到達目標	・ヒトの歯の全般的な特徴について図を用いて説明することができる。 ・前歯、小臼歯、大臼歯の特徴を踏まえて、指示した歯の上下左右を鑑別することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	模型を持参すると、より深く興味関心が湧き、積極的に授業に参加することが出来る。 講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/22)	オリエンテーション 歯の専門家を目指しての第一歩	講義	歯の種類と分類方法。歯の記号と歯式、方向を表す用語を理解する。				
2	上顎中切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎中切歯の形態的特徴を理解する。				
3	上顎側切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎側切歯の形態的特徴を理解する。切歯の相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
4	犬歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎犬歯の形態的特徴を理解する。また、上顎と下顎の相違を確認することで、それぞれの形態的特徴の理解を深める。				
5	上顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。				
6	グループワーク①	講義	第5回までの内容についてグループワークを通じて理解を深める。				
7	上顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯と上顎第二大臼歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解を深める。				
8	下顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。				
9	下顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一大臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
10	上顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。				
11	上顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、上顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
12	下顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。				
13	下顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
14	下顎切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎中切歯と下顎側切歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解する。				
15 (9/11)	14回目までの振り返り	講義	歯の特徴・鑑別について今まで実施した授業内容を振り返る。				

科目名 (英)	歯の解剖学基礎Ⅰ Dental Anatomy-BasisⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講期間	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教員歴も長い教員が歯科技工士に必要な永久歯の知識について分かりやすく授業を行う。						
目的	1本の歯が上下左右どの位置にあるのか判断できるようになるために、歯に関する専門用語と歯の観察方法についての知識を習得する。						
科目概要	歯や口の中を歯科技工士がどのように観察し、表現するのかを、専門用語や永久歯の形態的特徴を捉えながら、実際の口腔内や模型で理解する。						
到達目標	・ヒトの歯の全般的な特徴について図を用いて説明することができる。 ・前歯、小臼歯、大臼歯の特徴を踏まえて、指示した歯の上下左右を鑑別することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	模型を持参すると、より深く興味関心が湧き、積極的に授業に参加することが出来る。 講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/22)	オリエンテーション 歯の専門家を目指しての第一歩	講義	歯の種類と分類方法。歯の記号と歯式、方向を表す用語を理解する。				
2	上顎中切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎中切歯の形態的特徴を理解する。				
3	上顎側切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎側切歯の形態的特徴を理解する。切歯の相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
4	犬歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎犬歯の形態的特徴を理解する。また、上顎と下顎の相違を確認することで、それぞれの形態的特徴の理解を深める。				
5	上顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。				
6	グループワーク①	講義	第5回までの内容についてグループワークを通じて理解を深める。				
7	上顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一大臼歯と上顎第二大臼歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解を深める。				
8	実力確認	講義	第7回までの内容について自身の理解度を確認し、理解不足している内容について理解する。				
9	下顎第一大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一大臼歯の形態的特徴を理解する。				
10	下顎第二大臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二大臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一大臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
11	上顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。				
12	上顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、上顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、上顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
13	下顎第一小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第一小臼歯の形態的特徴を理解する。				
14	下顎第二小臼歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎第二小臼歯の形態的特徴を理解する。また、下顎第一小臼歯との相違を確認することで、それぞれの理解を深める。				
15 (9/11)	下顎切歯の特徴	講義	歯牙模型の観察を通して、下顎中切歯と下顎側切歯の相違を確認し、それぞれの形態的特徴を理解する。				

科目名 (英)	歯型彫刻基礎 Basic Training of Dental Carving	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				

講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、基本的な歯牙形態の彫刻方法について授業を実施する。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	代表的な(特徴のある)歯について、見本模型を見て特徴を確認しながら、彫刻やデッサンを通じて再現する。						
到達目標	・歯の彫刻に必要な道具の正しい使い方を指摘することができる。 ・角柱の作り方がわかり、指定時間内に製作することができる。 ・歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 毎日決めた時間内にデッサンをして 大まかな形を覚え、彫る練習をすると、比較的上達が早くなる。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/24)	オリエンテーション 彫刻に使用する道具の使い方	実習	石膏棒を制作する道具を選び、石膏棒の制作を行う。 切り出しナイフの正しい持ち方を習得し、石膏棒を削る。
2	整理整頓について 切り出しナイフを使って角柱を作る	実習	前回の復習に挑戦する。 歯型彫刻に必要な角柱の削り方を習得する。
3	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻①	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
4	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻②	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
5	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻③	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
6	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻④	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
7	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻⑤	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
8	上顎中切歯の石膏棒を使った面取り彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の面取り彫刻のまとめとして最初から面取り彫刻を実施する。
9	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻①	実習	上顎犬歯のデッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
10	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻②	実習	上顎犬歯のデッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。
11	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻③	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
12	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻④	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
13	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻⑤	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。
14	上顎犬歯の石膏棒を使った面取り彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の面取り彫刻のまとめとして最初から面取り彫刻を実施する。
15 (9/9)	上顎中切歯と上顎犬歯の面取り彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の面取り彫刻と上顎犬歯の面取り彫刻のまとめとして面取り彫刻を実施する。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅰ Dental Materials Science-BasicⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				前期
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院にて臨床経験を有する講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	安全で、精度の良い歯科技工物を製作するために、歯科材料(石膏・レジン・金属)の性質や取り扱い方法を習得する。						
科目概要	口腔内で人工臓器として機能を果たす装置を製作するための基本的知識および製作方法を学ぶことを目的とする。教科書の該当部分は以下の通りである。 第1章「歯科技工と歯科理工学」、第2章「歯科材料の性質」、第3章「印象と模型製作」、第4章「原型製作」、第5章「レジン成形」、第7章「金属成形」、第9章「補綴装置と修復物の仕上げ」、第10章「新しい加工技術」、第11章「補綴装置と修復物の安定性」						
到達目標	①歯科臨床現場で使用する材料の基本的知識(種類、組成、性質)および取り扱いについて説明できる。 (金属材料・セラミック系材料・レジン系材料の概要、印象材、模型材、原型材料) ②歯科技工による装置製作の過程(ロストワックス精密鑄造法)を説明できる。 ③新しい歯科材料および加工法(デジタルデンティストリー)を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/10)	歯科技工と歯科理工学(第1章) 歯科材料の分類と特徴(第2章-1) 補綴装置と修復物の安定性(第11章)	講義	歯科理工学の意義と目的(歯科理工学の意味、歯科理工学の目的)、歯科材料の果たす役割、 歯科用装置の製作過程、歯科技工の安全性と環境、物質の構造(原子間結合、材料の種類と性質) ※教科書該当ページ:p.1～p.7、p.190～p.195				
2	歯科治療の実際	講義	歯科医療の全体像(教科書には記載のない内容) →歯科治療の全体像、用語の整理				
3	印象と模型製作①(第3章)	講義	印象材(印象材の分類、印象材の種類、印象材の一般的性質、印象材と模型材との関係) ※教科書該当ページ:p.28～p.40				
4	印象と模型製作②(第3章)	講義	模型材(石膏の種類、石膏の一般的性質) ※教科書該当ページ:p.40.～p.50				
5	金属成形①(第1章、第7章)	講義	鑄造(鑄造理論) ※教科書該当ページ:p.3、p.114～p.115				
6	金属成形②(第7章)	講義	歯科用合金(歯科用合金の所要性質)、金合金、銀合金 ※教科書該当ページ:p.106～p.113				
7	まとめ	講義	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。				
8	確認試験	講義	第1回～第6回の講義範囲の確認試験を行う。 ※知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)、および多肢選択問題を出題する。				
9	金属成形③(第7章)	講義	コバルトクロム合金、チタンおよびチタン合金、ステンレス鋼、合金の熱処理 ※教科書該当ページ:p.113～p.114、p.155～p.156				
10	金属成形④(第7章)	講義	金属の加工(金属の塑性加工と硬化、歯科用CAD/CAM)、金属の接合(種類、ろう付け、ろう付け法、溶接、鋳接) ※教科書該当ページ:p.145～p.154				
11	金属成形⑤(第7章) 原型製作(第4章)	講義	鑄造(鑄造理論、埋没材)、原型材料(歯科用ワックスの種類と用途、歯科用ワックスの組成、歯科用ワックスの性質、ワックス以外の原型材料) ※教科書該当ページ:p.114～p.122、p.51～p.58				
12	金属成形⑥(第7章)	講義	鑄造(埋没操作、鑄型の加熱、鑄造操作、鑄造欠陥、適合不良) ※教科書該当ページ:p.122～p.144				
13	補綴装置と修復物の仕上げ(第9章)	講義	意義と目的、成形体の仕上げ、機械研磨、化学研磨、圧延による表面仕上げ、材料添加による表面仕上げ、研磨効率、切削・研削、研磨に用いられる器械・器具、各種補綴装置と修復物の研磨方法 ※教科書該当ページ:p.164～p.180				
14	新しい加工技術(第10章)	講義	CAD(Computer Aided Dsdign)、CAM(Computer Aided Manufacturing)(切削加工法、積層造形法) ※教科書該当ページ:p.181～p.189				
15 (9/6)	まとめ	講義	第9回～第14回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。 (定期試験範囲は第1回～第15回とする。)				

科目名 (英)	有床義歯技工学基礎Ⅰ Denture Techniques-BasicⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤貴映・鶴飼 芳行
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科医師であり、ひかり歯科クリニック院長として臨床経験を有する講師が歯の喪失による口腔内変化等臨床の現場からの視点で講義を行う。また歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、有床義歯技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	部分床義歯を中心に、有床義歯製作に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	部分床義歯の構成要素、技工操作の手順をヒトの生体に関する基礎知識に関連付けて理解する。 実習授業においてそれらの知識を活用できる。						
到達目標	・部分的に歯が抜けた口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。 ・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）				事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/9)	オリエンテーション 歯の喪失による口腔内変化	講義	歯が無くなってしまった口腔内の変化について知り、入れ歯がどのように装着されているかを知ることができる。				
2	生体についての基礎知識	講義	歯が無くなってしまった上下顎口腔内について、義歯製作に必要な基準を知ることができる。				
3	部分床義歯の意義と目的	講義	部分床義歯の構成や、基礎的な知識を知ることができる。				
4	サベイング	講義	サベイングとは何かを知ることができる。 サベイヤーの使用目的や種類、付属品の用途について知ることができる。				
5	支台装置①	講義	支台装置とは何かを知り、支台歯装置製作にあたって必要な語句を知ることができる。 支台装置の種類と各部名称を知ることができる。				
6	支台装置②	講義	支台装置の種類別による特徴を知ることができる。 支台装置の種類別による適応症、禁忌症を知ることができる。				
7	支台装置まとめ	講義	支台装置についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。				
8	連結子①	講義	上顎の連結子について、形態の違いによる種類を知ることができる。 上顎連結子の種類による適応症、禁忌症を知ることができる。				
9	連結子②	講義	下顎の連結子について、形態の違いによる種類を知ることができる。 下顎連結子の種類による適応症、禁忌症を知ることができる。				
10	連結子まとめ	講義	連結子についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。				
11	レスト・アタッチメント	講義	レストの種類と設定の目的について知ることができる。 支台装置の一種であるアタッチメントの種類、それぞれの利点と欠点を知ることができる。				
12	部分床義歯 義歯床	講義	欠損状況に適応する義歯床形態について知ることができる。				
13	部分床義歯 埋没・重合	講義	部分床義歯の欠損状況の違いによるフラスコ埋没方法を知ることができる。 重合の失敗とその原因を学び、失敗しないための方法を理解する。				
14	義歯製作の流れ	講義	前期受講した有床義歯に関して、歯科医師と歯科技工士の製作工程におけるお互いの作業について、歯科医師である講師と担当教員（歯科技工士）が対面で行い理解を深める。				
15 (9/5)	前期 有床義歯技工学の振り返り	講義	前期受講した有床義歯に関する講義を振り返り、定期試験に向けてまとめを行う。				

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅰ Basic Training of Partial denture TechniquesⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、部分床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	義歯製作の基本的な手順(ワックスからレジン重合、研磨まで)を模型からの口蓋板製作の実習通して理解し、歯科技工士の基本作業を理解する。						
科目概要	本模型を口腔内に見立てて「口蓋板」の製作を通して、義歯製作の手順及び使用材料の特徴について、その概略を理解する。						
到達目標	・義歯製作の「埋没操作」を理解し、実践できるようになる。 ・有床義歯の材料である「加熱重合レジン」の特性を理解し、レジン操作を習得する。 ・製作した口蓋板(技工物)の本模型への装着を通じて、義歯(技工物)の適合や、使用する患者の気持ちまで考えられるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/10)	設計 ワックスアップ①	実習	本模型(66T-22)を用いて設計選を記入する。 設計線に合わせてワックスアップを行う。				
2	ワックスアップ② トリミング	実習	ワックスアップ部分をきれいに仕上げる。 模型の不要な部分を削って、埋没の準備をする。				
3	フラスコ一次埋没	実習	フラスコへの一次埋没を行う。				
4	フラスコ一次埋没	実習	フラスコへの一次埋没を行う。				
5	フラスコ二次埋没	実習	フラスコへの二次埋没を行う。				
6	フラスコ二次埋没	実習	フラスコへの二次埋没を行う。				
7	流蠟	実習	ワックスを除去する。 レジン分離材の塗布。				
8	流蠟	実習	ワックスを除去する。 レジン分離材の塗布。				
9	レジン填入～重合①	実習	加熱重合レジンの練和。 餅状レジンの填入～重合。				
10	レジン填入～重合②	実習	加熱重合レジンの練和。 餅状レジンの填入～重合。				
11	掘り出し	実習	重合後の掘り出し操作を行う。				
12	掘り出し	実習	重合後の掘り出し操作を行う。				
13	形態修正①	実習	重合された口蓋板の形態修正を行う。				
14	形態修正② 研磨①	実習	口蓋板の形態修正、研磨を行う。				
15 (6/28)	研磨② 完成	実習	口蓋板を研磨、完成させる。 実際に口腔内に装着するための感覚を習得する。				

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Partial denture TechniquesⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、部分床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	部分床義歯における支台装置(クラスプ)の役割について、鑄造鉤の製作を通じて理解する。						
科目概要	部分床における支台装置の役割を理解し、クラスプ及び部分床義歯の製作を通して、基本的な設計の方法、代表的な器材であるサバイヤーの使用方法について理解を深める。						
到達目標	・サバイヤーの使用目的や使用方法を理解し、操作することができる。 ・線鉤、鑄造鉤の設計を理解し、設計線を描くことができる。 ・鑄造鉤の製作方法、製作上の注意点(金銀パラジウム合金の鑄造方法、注意点、熱処理の目的)を理解し、作業することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (7/5)	サベイング・設計① 【上顎:66T-31U・下顎:66T-22L】	実習	上顎模型を使用してサバイヤーの使用方法、使用上の注意点を理解し、操作する。 下顎模型(66T-22L)の咬合器装着の準備をする。 ※サベイング用模型(66T-31USaveイング用) ※設計用模型(66T-31UPD製作用)				
2	サベイング～設計② ブロックアウト	実習	ブロックアウトの基本操作、注意点を理解し、作業する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。				
3	複印象前準備～複印象	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業する。 複印象前準備～複印象までの方法、注意点を理解し、作業する。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。				
4	耐火模型製作	実習	気泡混入に注意しながら耐火模型材を注入できる。 下顎模型の咬合器装着の準備をする。				
5	ワックスパス～設計転記	実習	ワックスパスの注意点を理解し、作業する。 設計転記の注意点を理解し、確実に設計を行う。				
6	鑄造鉤・ワックスアップ①	実習	鑄造鉤の作業工程、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。				
7	鑄造鉤・ワックスアップ② 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
8	鑄造鉤・ワックスアップ③ 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤ワックスアップの方法、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤埋没の前準備(トリミング)、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
9	鑄造鉤・前準備～埋没 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の埋没方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
10	鑄造鉤・鑄造 線鉤屈曲	実習	鑄造方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
11	鑄造鉤・形態修正 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の形態修正・研磨方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
12	鑄造鉤・熱処理① 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
13	鑄造鉤・熱処理② 線鉤屈曲	実習	軟化熱処理・硬化熱処理の方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲の方法、注意点を理解し、作業する。				
14	鑄造鉤・研磨① 線鉤屈曲	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業する。 線鉤屈曲完成後の作業について理解する。				
15 (8/1)	鑄造鉤・研磨②	実習	鑄造鉤の研磨方法、注意点を理解し、作業する。 鑄造鉤の適合を確認し、調整する。				

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Partial denture TechniquesⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、部分床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	部分床義歯における人工歯排列や歯肉形成の基本的な知識について製作を通じて理解する。						
科目概要	部分床義歯の人工歯排列や歯肉形成について基本的な知識を確認し、製作を通じて理解を深める。						
到達目標	・線鉤、鑄造レストの製作方法、製作上の注意点を理解し、作業することができる。 ・上顎大連結子の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作することができる。 ・部分床義歯の人工歯の排列・歯肉形成についての製作方法、製作上の注意点を理解し、作業することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (8/1)	線鉤・鑄造レストの製作①	実習	鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、ワックスアップを行う。 鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、埋没を行う。				
2	線鉤・鑄造レストの製作② パラタルバー設計・屈曲	実習	鑄造レストの製作方法、注意点を理解し、埋没を行う。 大連結子の役割、種類を理解し、屈曲の準備を行う。				
3	パラタルバー屈曲① 鑄造レストの埋没	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲を行う。 鑄造レストの埋没を行う。				
4	パラタルバー屈曲② 鑄造レストの埋没	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲を行う。 鑄造レストの埋没を行う。				
5	パラタルバー屈曲③ 鑄造レストの鑄造	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、屈曲・研磨を行う。 鑄造レストの鑄造を行う。				
6	パラタルバー屈曲④ 鑄造レストの鑄造	実習	パラタルバー屈曲の方法、注意点を理解し、研磨を行う。 鑄造レストの鑄造を行う。				
7	鑄造レストの適合・調整・研磨	実習	鑄造レストを模型上で適合・調整した後に研磨する。				
8	クラスプ・パラタルバーの固定	実習	維持装置の模型上での固定方法を理解する。 維持装置の調整方法、注意点を理解する。				
9	クラスプ・パラタルバーの固定	実習	維持装置の模型上での固定方法を理解する。 維持装置の調整方法、注意点を理解する。				
10	人工歯排列 (中間欠損) ①	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。				
11	人工歯排列 (中間欠損) ②	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。				
12	人工歯排列 (遊離端欠損) ①	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。				
13	人工歯排列 (遊離端欠損) ②	実習	部分床義歯の人工歯排列方法を理解する。 人工歯の調整方法、注意点を理解する。				
14	歯肉形成 (遊離端欠損)(中間欠損) ① 蠟義歯 完成【66T-32(U)】	実習	部分床義歯の人工歯排列～歯肉形成までの方法、注意点を理解する。 部分床義歯の歯肉形成(遊離端欠損)の方法、注意点を理解する。 部分床義歯の人工歯排列～蠟義歯完成までの方法、注意点を理解する。				
15 (9/27)	歯肉形成 (遊離端欠損)(中間欠損) ② 蠟義歯 完成【66T-32(U)】	実習	部分床義歯の人工歯排列～歯肉形成までの方法、注意点を理解する。 部分床義歯の歯肉形成(遊離端欠損)の方法、注意点を理解する。 部分床義歯の人工歯排列～蠟義歯完成までの方法、注意点を理解する。				

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎Ⅰ Restorative Dentistry BasicⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島三知長・鍛冶田 忠彦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識について授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	顎の動きや口の周りの筋肉と調和する補綴物を作るための要件や製作方法を口腔内で使用される材料と関連付けて理解する。						
到達目標	・要件について説明することができる。 ・作業用模型の製作や種類、辺縁形態について説明することができる。 ・全部被覆冠、部分被覆冠についての特徴や分類を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/22)	歯冠修復技工学の概要 クラウンの概要と種類	講義	歯冠修復技工学の意義・目的、臨床的価値について理解する。 クラウンの概要と種類について理解する。				
2	Cr&Brの具備要件－1	講義	歯および歯列との関係について理解する。				
3	Cr&Brの具備要件－2	講義	歯周組織との関係について理解する。				
4	Cr&Brの具備要件－3	講義	清掃性との関係、材料の特性について理解する。				
5	Cr&Brの具備要件－4	講義	支台歯のテーパーと保持力について理解する。				
6	Cr&Brの具備要件－5	講義	ガルバニー電流、変色の原因について理解する。				
7	Cr&Brの具備要件－6	講義	審美的要件について理解する。				
8	まとめ	講義	歯冠修復技工学の概要、クラウンの概要と種類、Cr&Brの具備要件について理解度を深める。				
9	全部金属冠-1	講義	全部金属冠の特徴、適応用途、製作方法を理解する。				
10	全部金属冠-2	講義	全部金属冠の特徴、適応用途、製作方法について理解する。				
11	部分被覆冠-1	講義	インレー、アンレーの特徴、ブラックの窩洞分類について理解する。				
12	部分被覆冠-2	講義	窩洞の構成、部分被覆冠の特徴について理解する。				
13	作業用模型	講義	作業用模型の種類と特徴について理解する。				
14	辺縁形態	講義	辺縁形態の種類と特徴について理解する。				
15 (9/9)	咬合採得	講義	咬合採得、咬合記録材料を理解する。				

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅰ Basic Training of Restorative DentistryⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、模型製作の手順とワックスアップの知識、技術を習得する。						
科目概要	模型製作や、ワックスアップに必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、26クラウンのワックスアップまで製作できる。						
到達目標	・作業用模型を製作することができる。 ・全部金属冠を製作する為にワックスアップで形を作ることができる。 ・ワックスアップの操作方法、研磨しやすい溝の形成ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 ・実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/14)	ワックスの取り扱い方	実習	気泡が入らないワックスの流し方を習得する。(ワックスを取る、流す練習) 咬合面パターンヘスブルーの立て方を習得する。 円柱のワックス盛り上げ練習をする。				
2	埋没・円柱の盛り上げ	実習	埋没する為の埋没材と水の量、気泡を入れない為の埋没方法が分かる。(鑄型を作る) 円柱のワックス盛り上げ練習をする。				
3	鑄造・対合歯模型の製作	実習	遠心鑄造器の取り扱い方、金属を溶かし鑄込むタイミングを習得する。 還元炎の作り方を習得する。 石膏の注入方法を習得する。				
4	鑄造・対合歯模型の製作	実習	遠心鑄造器の取り扱い方、金属を溶かし鑄込むタイミングを習得する。 還元炎の作り方を習得する。 石膏の注入方法を習得する。				
5	円柱の盛り上げ・対合歯模型の製作	実習	円柱のワックス盛り上げ練習をする。 石膏の注入方法を習得する。				
6	研磨	実習	エンジンの使い方、持ち方、動かし方について習得する。 スブルーカット、荒研磨、中研磨、仕上げ研磨の手順と研磨方法について習得する。				
7	円柱の盛り上げ・模型の製作	実習	円柱のワックス盛り上げ練習をする。 石膏の注入方法を習得する。				
8	クラウン模型製作	実習	トリマーの使用方法を理解し、作業用模型の切削について習得する。 ダイロクトレーを使用して作業用模型の製作を習得する。				
9	クラウン模型製作	実習	トリマーの使用方法を理解し、作業用模型の切削について習得する。 ダイロクトレーを使用して作業用模型の製作を習得する。				
10	インレーの盛り上げ・咬合器装着	実習	インレーのワックス盛り上げの方法を習得する。 咬合器に模型を装着する。				
11	インレーの盛り上げ・咬合器装着	実習	インレーのワックス盛り上げの方法を習得する。 咬合器に模型を装着する。				
12	クラウンワックスアップ①	実習	ワックスの盛り方、手順を習得する。 クラウンの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 咬合接触、隣接接触点の位置を理解し製作することができる。				
13	クラウンワックスアップ②	実習	研磨がしやすい溝の入れ方を習得する。 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。				
14	クラウンワックスアップ③	実習	接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。 ワックススブルーを植立し埋没をする。				
15 (6/11)	クラウンワックスアップ④	実習	接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スブルーの植立位置を理解する。 ワックススブルーを植立し埋没をする。				

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅱ Basic Training of Restorative DentistryⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、咬合の知識と全部金属冠の製作技術を習得する。						
科目概要	模型製作や、インレー、クラウンの製作に必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、クラウンが製作できる。						
到達目標	・作業用模型が製作することができる。 ・全部金属冠の(下顎)ワックスアップの盛り上げ方、咬み合わせ方の技術を習得する。 ・メタルコアのワックスアップ、鑄造をすることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 ・実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (6/12)	クラウン模型製作、鑄造①	実習	ダウエルピンを植立し、回転防止孔をつける。 鑄造操作、遠心鑄造器の取り扱い方を習得する。 ブローパイプで金属を溶かすタイミングを習得する。				
2	クラウン模型製作、鑄造②	実習	ダウエルピンを植立し、回転防止孔をつける。 鑄造操作、遠心鑄造器の取り扱い方を習得する。 ブローパイプで金属を溶かすタイミングを習得する。				
3	インレー製作、クラウンの適合①	実習	二次石膏を注入する。 クラウンの適合状態を確認する。				
4	インレー製作、クラウンの適合②	実習	二次石膏を注入する。 クラウンの適合状態を確認する。				
5	クラウンの研磨①	実習	マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。				
6	クラウンの研磨②	実習	マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。				
7	クラウンの研磨③	実習	マージンの研磨方法を習得する。 隣接接触点、咬合の調整方法を習得する。 荒研磨までできる。				
8	メタルコアのワックスアップ①	実習	ポストの採得方法を習得する。 コアの形態、維持力の調整を習得する。				
9	メタルコアのワックスアップ②	実習	ポストの採得方法を習得する。 コアの形態、維持力の調整を習得する。				
10	下顎クラウン模型製作①	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。				
11	下顎クラウン模型製作②	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。				
12	下顎クラウン模型製作③	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。				
13	下顎クラウン模型製作④	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。				
14	下顎クラウン模型製作 咬合器装着①	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。 咬合器装着時の注意点を理解し、咬合器装着を習得する。				
15 (7/16)	下顎クラウン模型製作 咬合器装着②	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。 咬合器装着時の注意点を理解し、咬合器装着を習得する。				

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅲ Basic Training of Restorative DentistryⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				前期
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するために、咬合の知識とブリッジの製作技術を習得する。						
科目概要	ポンティック形態の基本的な知識や技術を身につけ、クラウンとブリッジを製作する。						
到達目標	・作業用模型を製作することができる。 ・下顎臼歯部のブリッジのワックスアップ、特にポンティックの形態を作ることができる。 ・ブリッジを鋳造し、荒研磨まで行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 ・実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (7/13)	下顎クラウン模型製作 咬合器装着①	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。 咬合器装着時の注意点を理解し、咬合器装着を習得し、トリミングについても理解する。				
2	下顎クラウン模型製作 咬合器装着②	実習	歯型可撤式模型の製作手順を理解し、作業用模型の製作手順を習得する。 咬合器装着時の注意点を理解し、咬合器装着を習得し、トリミングについても理解する。				
3	下顎クラウンのワックスアップ①	実習	ワックスの盛り方、手順を習得する。 フィッシュマウスまでの歯冠外形の盛り上げ手順を覚える。				
4	下顎クラウンのワックスアップ②	実習	ワックスの盛り方、手順を習得する。 クラウンの歯冠外形の盛り上げ操作、主溝の位置を覚える。 咬合接触、隣接接触点の位置を理解し製作することができる。				
5	下顎クラウンのワックスアップ②	実習	研磨がしやすい溝の入れ方を習得する。 接触点の追加操作、マージンの修正の仕方を習得する。 リムーバルノブ、スプルーの植立位置を理解する。				
6	下顎ブリッジの作業用模型の製作① クラウン鋳造	実習	下顎ブリッジの模型製作について理解し、歯型可撤模型の製作について習得する。 鋳造操作を復習、習得する。				
7	下顎ブリッジの作業用模型の製作② クラウン鋳造	実習	下顎ブリッジの模型製作について理解し、歯型可撤模型の製作について習得する。 鋳造操作を復習、習得する。				
8	下顎ブリッジの作業用模型の製作③ クラウン鋳造	実習	下顎ブリッジの模型製作について理解し、歯型可撤模型の製作について習得する。 製作した作業用模型を咬合器に装着する。 鋳造操作を復習、習得する。				
9	下顎ブリッジの作業用模型の製作④ クラウン鋳造	実習	下顎ブリッジの模型製作について理解し、歯型可撤模型の製作について習得する。 製作した作業用模型を咬合器に装着する。 鋳造操作を復習、習得する。				
10	下顎ブリッジ蛭型採得①	実習	下顎ブリッジの蛭型採特について理解し、ワックス操作を習得する。				
11	下顎ブリッジ蛭型採得②	実習	下顎ブリッジの蛭型採特について理解し、ワックス操作を習得する。				
12	下顎ブリッジ蛭型採得③ 前歯部模型製作①	実習	下顎ブリッジの蛭型採特について理解し、ワックス操作を習得する。 石膏注入について理解し、実施することで作業用模型を製作する。				
13	下顎ブリッジ蛭型採得④ 前歯部模型製作②	実習	下顎ブリッジの蛭型採特について理解し、ワックス操作を習得する。 石膏注入について理解し、実施することで作業用模型を製作する。				
14	下顎ブリッジ蛭型採得⑤ 前歯部模型製作③	実習	下顎ブリッジの蛭型採特について理解し、ワックス操作を習得する。 石膏注入について理解し、実施することで作業用模型を製作する。				
15 (9/14)	下顎ブリッジ蛭型採得完成 前歯部模型製作完成	実習	下顎ブリッジの蛭型採特と前歯の作業用模型製作が完成する。				

科目名 (英)	技工基本実習Ⅰ Basic Training of Dental technologyⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	限られた時間の中で課題が完成できるよう、反復練習を行い基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	歯冠修復基礎実習における基本操作(盛る・削る・並べる)を通じて、指定した歯種を規定時間内で製作する。						
到達目標	・ワックスアップの基本操作を理解し、ワックス操作ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点として評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/15)	ワックス、バーナーの取り扱い	実習	各種ワックスを取り扱うことができる。 ガスバーナーを取り扱うことができる。
2	石膏の取り扱い	実習	石膏(手練り、真空練和)を取り扱うことができる。 界面活性剤、パイプレーターを取り扱うことができる。
3	エンジンの取り扱い	実習	技工用エンジンを取り扱うことができる。
4	トレーレジンの取り扱い	実習	トレーレジンの取り扱いことができる。
5	作業用模型の製作①	実習	模型製作について理解し、作業用模型の製作を実施する。
6	作業用模型の製作②	実習	上級生との合同実習を通じて模型製作について理解し、作業用模型の製作を実施する。
7	作業用模型の製作③	実習	上級生との合同実習を通じて模型製作について理解し、作業用模型の製作を実施する。
8	作業用模型の製作④	実習	模型製作について理解し、作業用模型の製作を実施する。
9	作業用模型の製作⑤	実習	模型製作について理解し、作業用模型の製作を実施する。
10	歯冠修復物の蠟型採得①	実習	上級生との合同実習を通じて蠟型採得について理解し、蠟型の製作を実施する。
11	歯冠修復物の蠟型採得②	実習	上級生との合同実習を通じて蠟型採得について理解し、蠟型の製作を実施する。
12	歯冠修復物の蠟型採得③	実習	ワックスアップの練習をする。
13	歯冠修復物の蠟型採得④	実習	ワックスアップの練習をする。
14	歯冠修復物の蠟型採得⑤	実習	ワックスアップの練習をする。
15 (5/10)	歯冠修復物の蠟型採得⑥	実習	ワックスアップの練習をする。

科目名 (英)	歯科技工実習総合 I Training of Dental Technology I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が歯科医療に求められる技術習得について授業を実施する。						
目的	チーム歯科医療の一員であることを確認するために、各科目を通じて学んだことを振り返り、歯科技工士としての役割を認識する。						
科目概要	チーム歯科医療の一員としての役割を、実習を通じて確認できる。						
到達目標	・1年生で習得する技術に関して、歯科治療の流れを疑似体験しながら学び、専門技術を習得する ・指定課題について、自ら課題を設定し、到達度を記述することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学（医歯薬出版）			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、 時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、 写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/23)	スポーツマウスガードの製作方法①	実習	加圧成型機の使用方法和EAV素材の圧接について理解する。
2	スポーツマウスガードの製作方法②	実習	圧接されたEVAシートの切削、咬合調整、仕上げ方法を理解する。
3	スポーツマウスガードの製作方法③	実習	スポーツマウスガードの製作について理解する。
4	焼付用金属のメタル処理	実習	焼付用金属のメタル処理を行う。
5	ディギヤッシング	実習	ディギヤッシングの目的を理解する。
6	オペーク陶材の築盛	実習	オペーク陶材を理解する。
7	歯冠色陶材の築盛①	実習	デンティン陶材の築盛を理解する。
8	歯冠色陶材の築盛②	実習	デンティン陶材の築盛を理解する。 内部ステインについて理解する。
9	歯型彫刻合同実習①	実習	2年生との合同実習を通じて、歯型彫刻の指導を受け技術の上達を図り、今後の目標を設定する。
10	歯型彫刻合同実習②	実習	2年生との合同実習を通じて、歯型彫刻の指導を受け技術の上達を図り、今後の目標を設定する。
11	歯型彫刻コンテスト	実習	指定した歯種を制限時間内にて歯型彫刻を実施する。
12	歯型彫刻コンテスト	実習	指定した歯種を制限時間内にて歯型彫刻を実施する。
13	内部ステイン・エナメル陶材築盛	実習	内部ステインとエナメル陶材の築盛を理解する。
14	形態修正	実習	形態修正と外部ステインを理解する。
15 (9/5)	グレーズ・仕上げ	実習	グレーズ（艶焼き）を理解する。

科目名	デジタル歯科技工入門	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛冶田 忠彦
(英)	Introduction to Digital Dental Technology	授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、PC操作の基礎からデンタルCADの基本的な操作方法と知識についての授業を行う。						
目的	CAD操作をするために、必要なPCの基本操作を身につけ、画面を用いた歯の設計方法を理解し、デジタル歯科技術を習得する。						
科目概要	アナログ歯科技工とデジタル技工の違いを知り、印象採得から歯科技工物完成までの一連の流れを理解する。臨床現場で使用している歯科専用ソフトウェア(3Shape)を使用し、クラウン製作の基本操作を行う。						
到達目標	・クラウンを設計することができる。 ・Word、Excel、PowerPointのいずれかをを用いてレポートの作成をすることができる。 ・スクリーンショットの方法を習得しレポートの作成を行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	特になし			事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、操作手順の復習を行う。 レポート作成に向けて、必要な資料を準備する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	設計の各ステップをスクリーンショットや写真に収めておくとレポート作成時に資料として使用できる。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/5)	デジタル歯科について	講義	基本的なマウスの動かし方や、CADソフトの起動の仕方、デジタル技工の全容を講義で学ぶ。
2	ソフト(3shape)の使用法を学ぶ	演習	3Shapeの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得する。
3	アナログ技工とデジタル技工の違い 操作手順	演習	アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違いを説明する。 デジタル技工の操作手順を実際の機材を見ながら習得する。
4	16クラウン設計①	演習	前回の授業の振り返りをする。 解剖学的な特徴を捉えたクラウンの設計方法を習得する。
5	16クラウン設計②	演習	前回の授業の振り返りをする。 解剖学的な特徴を捉えたクラウンの設計方法を習得する。
6	16クラウン設計③	演習	前回の授業の振り返りをする。 解剖学的な特徴を捉えたクラウンの設計方法を習得する。
7	設計(CAD)の流れを復習	演習	スキャンされたデータから解剖学的な特徴を捉えたクラウンの設計までの一連の作業を初めから通してデザイン完了までを目指す。
8 (7/24)	レポート作成	演習	クラウンの製作手順、注意事項についてのレポートを作成する。 表紙には「題名、出席番号、氏名」を必ず記載する。提出方法は授業内で指示をする。 スクリーンショットの使い方を習得する。

科目名 (英)	インターンシップⅠ InternshipⅠ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、基本的な歯科補綴物の作成方法についての知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つテクニックについて手技を指導する。						
目的	仕事と職場についてより理解し、自身の将来の目標設定の足掛かりとするために、校内では体験することのできない臨床現場の見学を行う。						
科目概要	日本における代表的な歯科技工士就業施設の見学を通して、歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を設定し、実践することができる。						
到達目標	・歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を発見し設定することができる。 ・課題を設定した後、実践することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	就職活動サポートブック(本校オリジナル教材)				事前事後 学習と その内容	【事前学習】 訪問する施設情報を事前に調べておくと、見学時に自身が知りたい情報を入手できる。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	レポート作成時に必要な写真を撮影しておく。その際には、様々な施設見学をするため撮影可能か確認を取る。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/15)	歯科技工所見学	演習	グループに分かれての歯科技工所見学を実施する。
2	歯科技工所見学	演習	グループに分かれての歯科技工所見学を実施する。
3	歯科技工所見学	演習	デジタル歯科技工に特化した歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
4	歯科技工所見学	演習	デジタル歯科技工に特化した歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
5	歯科技工所見学	演習	歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
6	歯科技工所見学	演習	歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
7	歯科材料メーカー紹介	演習	歯科材料メーカーの見学を通して将来の目標設定をする。
8 (9/26)	歯科材料メーカー紹介	演習	歯科材料メーカーの見学を通して将来の目標設定をする。

科目名 (英)	スポーツ歯学入門 Introduction to Sports Dentistry	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードインストラクターである教員が、歯科×スポーツについて知識と技術について講義を行い、基本的なカスタムメイドマウスガードの製作方法歯冠補綴物の作成方法について手技を指導する。						
目的	近年注目されている「スポーツ」×「歯科」の関係を学び、基本的なカスタムメイドマウスガード製作の技術を習得する。						
科目概要	スポーツデンティストによる講義からスポーツと歯科の関係を学び、実習においては自身の口腔内模型を用いてカスタムメイドマウスガードを製作する。スポーツマウスガードは安全にスポーツを楽しむことのできる装置であることを、製作と装着体験を通じて理解する。						
到達目標	・スポーツと歯科の関係を説明することができる。 ・マウスガード製作に必要な模型の製作方法とマウスガードの製作について説明することができる。 ・カスタムメイドマウスガードの基本的な製作方法に沿って、製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	授業内にて紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (8/19)	オリエンテーション 歯科技工士が作るマウスガード	演習	授業の概略を紹介する。授業の流れと学習内容を確認する。 また、市販品のマウスガードと歯科医師と製作するマウスガードとの違いに気づくことができる。
2	「スポーツ」×「歯科」について	演習	スポーツ歯科医学概論について学会認定インストラクターから講義を受ける。
3	マウスガード製作にむけて 口腔内模型トリミング	演習	自身の口腔内模型にてマウスガード製作に必要なトリミングを行う。
4	マウスガード製作むけて 咬合器装着	演習	自身の口腔内模型を咬合器装着する。
5	マウスガード製作を行う①	演習	口腔内模型に製作する外形線を記入する。
6	マウスガード製作を行う②	演習	加圧形成器を使用して模型に材料をプレスする。
7	マウスガード製作を行う③	演習	プレスされたシート材料をヒートカッターでカットする。
8 (8/22)	マウスガード製作を行う④	演習	形態修正を行い、口腔内に装着しても違和感の少ない装着感にする。

科目名 (英)	外国語 English for Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	ILC講師
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	複数の専門学校で基礎英語、英会話、専門英語などの授業を教えた経験のある日本人英語講師が、さまざまな場面でのロールプレイなどを交えながら英語での基本的なコミュニケーションの授業を行う。						
目的	英語で簡単な業界コミュニケーションが図れるようにするために、歯科業界における日常英会話、トラベル英会話を習得する。						
科目概要	海外での施設訪問や働く際に必要な英語表現や会話について理解する。						
到達目標	あいさつなど基本的な英語でのコミュニケーションができるようになる。 海外での施設訪問や働く際に必要な英語表現や会話について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業の内容を振り返り、新しく覚えたフレーズなど声に出して練習するなどして身に着けることを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/11)	あいさつ	講義	コミュニケーションの基本となるあいさつの英語表現と場面による使い分けを理解する。
2	海外の展示会に参加する①	講義	海外の展示会に参加する際、その道中で必要な英語表現と会話を理解する。 場面: 空港、ホテルなど
3	海外の展示会に参加する②	講義	海外の展示会に参加する際、その会場で必要な英語表現と会話を理解する。 場面: 展示会場受付、展示ブースなど
4	歯科医院での会話①	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 「歯が痛い」
5	歯科医院での会話②	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 「入れ歯を入れたい」
6	歯科医院での会話③	講義	歯の名前や構造の英語表現と歯科医院での会話を理解する。 その他の場面での
7	まとめ講義	講義	1～6回の授業内容のふり返しを行う。
8 (11/29)	練習問題・問題解説	講義	定期試験に向けた練習問題と解説を行う。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅱ Dental Materials Science-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				後期
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院にて臨床経験を有する講師が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	安全で、精度の良い歯科技工物を製作するために、歯科材料(金属・ワックス・埋没材)の性質や取り扱い方についての知識を習得する。						
科目概要	ワックスや埋没材について種類と性質を様々な視点から理解し、理論に基づいた取り扱いができる。						
到達目標	・正しい金属の取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。 ・正しいワックスの取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。 ・正しい埋没材の取り扱いについて理解し、精度良くつくれるように知識を身につけることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途授業内で紹介する。						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/4)	レジン成形①(第5章)	講義	義歯床用レジン(義歯床用レジン、加熱重合レジン) ※教科書該当ページ:p.3、p.59～p.68				
2	レジン成形②(第5章)	講義	義歯床用レジン(常温重合レジン、その他の義歯床用レジン、填入・成形法) ※教科書該当ページ:p.3、p.70～p.74				
3	レジン成形③(第5章)	講義	歯冠用硬質レジン(組成、性質、金属との接合)、CAD/CAM用コンポジットレジン ※教科書該当ページ:p.3、p.77～p.82				
4	レジン成形④(第5章)	講義	義歯床関連材料(人工歯、硬質義歯裏層材、軟質義歯裏層材)、その他のレジン(マウスガード用レジン、トレー用レジン、テンポラリークラウン用レジン) ※教科書該当ページ:p.74～p.77、p.82～p.83				
5	セラミック成形①(第6章)	講義	歯冠用セラミックス(概説、種類、性質と強化) ※教科書該当ページ:p.84～p.87				
6	セラミック成形②(第6章)	講義	長石系陶材(塑性、築盛、焼成)、金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、金属焼付用陶材と陶材焼付用合金) ※教科書該当ページ:p.87～p.100				
7	まとめ	講義	第1回～第6回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。				
8	確認試験	講義	第1回～第6回の講義範囲の確認試験を行う。 ※知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)、および多肢選択問題を出題する。				
9	セラミック成形③(第6章)	講義	加熱加圧型セラミックス(成分、成形法)、ソルゲル法(種類、成形法)、その他のセラミック材料(焼成で製作するセラミックス、ロストワックス法で製作するセラミックス、機械加工で製作するセラミックス) ※教科書該当ページ:p.100～p.105				
10	その他の歯科材料①(第8章)	講義	合着材・接着材(従来型セメント、接着性レジンセメント)、成形修復材(アマルガム、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメント) ※教科書該当ページ:p.157～p.162				
11	その他の歯科材料②(第8章)	講義	インプラント材料 ※教科書該当ページ:p.162～p.163				
12	歯科材料の性質①(第2章)	講義	機械的性質(応力とひずみ、弾性変形と塑性変形、応力-ひずみ曲線、展性と延性、曲げ強さ、疲労限、衝撃強さ、クリープ、粘弾性、硬さ) ※教科書該当ページ:p.7～p.17				
13	歯科材料の性質②(第2章)	講義	物理的性質(密度と比重、熱膨張係数、熱伝導率、熱可塑性、比熱、蒸散熱と融解熱、光の屈折と反射) ※教科書該当ページ:p.15～p.20				
14	歯科材料の性質③(第2章)	講義	化学的性質(腐食と変色、溶解性、吸水性、接着性)、生物学的性質(生体安全性の評価、生体反応) ※教科書該当ページ:p.20～p.27				
15 (1/24)	まとめ	講義	第9回～第14回の講義について問題演習を行い、解説講義を行う。 (定期試験範囲は第1回～第15回とする。)				

科目名 (英)	有床義歯技工学基礎Ⅱ Denture Techniques-BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤貴映・鵜飼 芳行
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科医師であり、ひかり歯科クリニック院長として臨床経験を有する講師が歯の喪失による口腔内変化等臨床の現場からの視点で講義を行う。また歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、有床義歯技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	部分床義歯を中心に、有床義歯製作に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	全部床義歯および金属床義歯の特性、印象方法、技工操作の手順を生体の変化に関連付けて理解する。 実習授業においてそれらの知識を活用できる。						
到達目標	・全ての歯が抜けた口腔内の変化を知り、全部床義歯の重要性、構成要素、製作に関する手順、注意点を理解する。 ・レジン床義歯と比較した金属床義歯の特性、製作手順、注意点を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/3)	生体についての基礎知識	講義	前期の同テーマを振り返り、全部床義歯で必要となる基礎知識の理解を深める。 全部床義歯と部分床義歯の違いを明確にする。
2	全部床義歯の特性	講義	全部床義歯について、基礎的な知識を知ることができる。
3	全部床義歯の製作順序	講義	全部床義歯が完成するまでの製作手順を知ることができる。
4	咬合採得	講義	咬合採得とは何かを知り、実際の操作手順を理解する。 咬合採得後の咬合床に記される標準線を理解する。
5	人工歯排列(前歯部)	講義	全部床義歯の前歯部の排列を理解する。 人工歯の形態を決める基準は何かを知ることができる。
6	人工歯排列(臼歯部)・歯肉形成	講義	臼歯部の理想的な排列を理解する。 クリステンセン現象、ニュートラルゾーン、パウンドラインについて理解する。 歯肉形成の一般的な注意事項、前歯部と臼歯部の注意点の違いについて理解する。
7	人工歯排列まとめ	講義	人工歯排列についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。
8	全部床義歯の埋没・重合	講義	全部床義歯のフラスコ埋没の各方法、注意事項について理解する。 部分床義歯のフラスコ埋没との違いを理解する。
9	全部床義歯の咬合器への再装着・削合	講義	咬合器再装着の各方法、選択削合、自動削合の概略を理解する。
10	削合まとめ	講義	削合についての振り返り、まとめを行い知識や理解を深めることができる。
11	義歯の目的別による分類	講義	義歯の使用目的による分類を理解する。即時義歯について利点欠点、製作法を理解する。
12	個人トレー	講義	個人トレーの構造、利点、製作手順を理解する。 全部床義歯用、部分床義歯用を比較し違いを理解する。
13	印象・模型製作	講義	印象採得から模型製作までの流れを理解する。
14	金属床義歯	講義	金属床義歯について理解する。 ノンクラスプデンチャーについて理解する。 オーバーデンチャーについて理解する。
15 (1/24)	後期 有床義歯技工学の振り返り	講義	後期受講した有床義歯に関する講義を振り返り、定期試験に向けてまとめを行う。

科目名 (英)	有床義歯基礎実習 Denture Techniques	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、有床義歯技工学について基本的な技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	レジン床部分床義歯が製作するために、維持装置、人工歯排列の技術を習得する。						
科目概要	片側中間欠損の模型を使用し、レジン床部分床義歯を製作する。						
到達目標	・鑄造クラスプの製作ができる。 ・中間欠損部に合わせた、排列、歯肉形成ができる。 ・部分床義歯製作の流れを再確認し、部分床義歯を完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 実習帳だけでなく、教科書の該当部分を読んでおくといよ。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (12/13)	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 埋没準備【66T-32(U)】	実習	義歯制作の過程を振り返り、蝋義歯の埋没準備を行う。				
2	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 一次・二次埋没【66T-32(U)】	実習	両側複合欠損の製作を振り返り、歯肉形成を行う。 フラスコへの一次埋没を行う。				
3	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 一次・二次埋没【66T-32(U)】	実習	フラスコへの一次埋没を行う。 フラスコへの二次埋没を行う。				
4	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 三次埋没【66T-32(U)】	実習	フラスコへの三次埋没を行う。				
5	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 流蝕【66T-32(U)】	実習	埋没した部分床義歯の流蝕を行う。				
6	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 流蝕【66T-32(U)】	実習	埋没した部分床義歯の流蝕を行う。				
7	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 填入【66T-32(U)】	実習	埋没した部分床義歯の填入を行う。				
8	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 填入【66T-32(U)】	実習	埋没した部分床義歯の填入を行う。				
9	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 掘り出し【66T-32(U)】	実習	部分床義歯の掘り出しを行い、重要なポイントを実習で学んでいく。				
10	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 咬合器再装着・削合【66T-32(U)】	実習	咬合器の再装着を行い、咬合調整・形態修正を行う。				
11	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 形態修正・研磨【66T-32(U)】 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の形態修正をおこなう。 片側欠損模型【PDW-1】を使用し人工歯を排列し流し込みレジン義歯の過程を体験する。				
12	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 形態修正・研磨【66T-32(U)】 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の形態修正をおこなう。 片側欠損模型【PDW-1】を使用し人工歯を排列し流し込みレジン義歯の過程を体験する。				
13	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 形態修正・研磨【66T-32(U)】 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の研磨をおこなう。 片側欠損模型【PDW-1】を使用し人工歯を排列し流し込みレジン義歯の過程を体験する。				
14	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 形態修正・研磨【66T-32(U)】 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の研磨をおこなう。 片側欠損模型【PDW-1】を使用し人工歯を排列し流し込みレジン義歯の形態修正をおこなう。				
15 (2/21)	部分床義歯(遊離端欠損)中間欠損) 形態修正・研磨【66T-32(U)】 片側欠損模型【PDW-1】	実習	部分床義歯の維持装置の研磨を行い、完成させる。 片側欠損模型【PDW-1】を使用し人工歯を排列し流し込みレジン義歯を完成させる。				

科目名 (英)	歯冠修復技工学基礎Ⅱ Restorative Dentistry BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識について授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	顎の動きや口の周りの筋肉と調和する補綴物を作るための要件や製作方法を口腔内で使用される材料と関連付けて理解する。						
到達目標	・ブリッジの構成要素、種類や特徴、部分床との違いなどについて説明することができる。 ・テンポラリークラウンについて説明することができる。 ・全部被覆冠、部分被覆冠についての特徴や分類を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/2)	製作過程(臨床ステップの概要)	講義	補綴物の製作順序、歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップについて理解する。				
2	印象採得	講義	印象採得、印象材の種類と特徴、印象材の取り扱い方法について理解する。				
3	研究用模型、印象用トレー	講義	研究用模型の目的、トレーの目的、トレーの種類、個人トレー、個歯トレーの製作法について理解する。				
4	継続歯、支台築造－1	講義	継続歯(ボストクラウン)の特徴、根面形態、支台築造法について理解する。				
5	支台築造－2	講義	いろいろな支台形態、補助的保持形態、分割コアについて理解する。				
6	暫間補綴装置、レジン前装冠－1	講義	暫間補綴装置の意義と目的、種類と使用材料、製作法について理解する。レジン前装冠の特徴、レジン前装と陶材前装の比較、維持装置について理解する。				
7	レジン前装冠－2	講義	レジン前装冠の窓開けの注意点、フレームのデザイン、硬質レジンについて理解する。				
8	まとめ講義	講義	臨床ステップの概要、印象採得、研究用模型、印象用トレー、継続歯、支台築造、暫間補綴装置、レジン前装冠についてまとめ講義を通じて理解を深める。				
9	ブリッジの概要と種類－1	講義	ブリッジの特徴、構成について理解する。				
10	ブリッジの概要と種類－2	講義	固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジの特徴について理解する。				
11	ポンティック－1	講義	基底面形態によるポンティックの分類について理解する。				
12	ポンティック－2	講義	自浄作用によるポンティックの分類、ポンティックの咬合面形態や負担軽減対策について理解する。				
13	連結－1	講義	連結部の要件、連結方法の種類、ワンピースキャスト法、鉚付け法について理解する。				
14	連結－2	講義	支台装置とポンティックの固定方法、鉚付け法と比較した一塊鑄造法の利点・欠点について理解する。				
15 (1/22)	インプラント	講義	インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類などについて理解する。				

科目名 (英)	歯冠修復基礎実習Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛治田 忠彦
	Basic Training of Restorative DentistryⅣ	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
単位		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯冠修復に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	鑑付けの基本的な知識や技術を身につけ、下顎ブリッジとレジン前装冠を製作する。						
到達目標	・鑑付けする為に埋没操作を理解し埋没することができる。 ・鑑付けの炎の作り方、埋没材への当て方を理解し実践することができる。 ・前歯部のワックスアップを完成することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 実習帳だけでなく、教科書の該当部分を読んでおくとよい。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。 ・実習で遅れたり、欠席した場合は教員が指示する期日までに終わらせておく。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (1/8)	下顎作業模型製作	実習	複数歯・欠損部のダウエルピン植立方法を習得する。 臼歯のトリミング方法を習得する。				
2	咬合器装着・歯型トリミング	実習	ブリッジ模型の咬合器装着方法を習得する。 臼歯のトリミング方法を習得する。				
3	ワックスアップ①	実習	CAD冠を歯型に適合させる方法を習得する。 ポンティック部のワックスアップの手順を覚える。 歯列に調和させることを理解する。				
4	ワックスアップ②	実習	CAD冠を歯型に適合させる方法を習得する。 ポンティック部の形態を覚える。 ポンティック部の窓あけを覚える。				
5	ワックスアップ③	実習	連結部の分割方法を習得する。 エアプントを付与する。 ブリッジの埋没手順を覚える。				
6	鑄造・研究模型製作	実習	研究模型の製作方法を習得する。 ブリッジの鑄造方法を覚える。				
7	鑄造・研究模型製作	実習	研究模型の製作方法を習得する。 ブリッジの鑄造方法を覚える。				
8	鑑付け準備①	実習	ブリッジにバーとスティッキーワックスを使用した固定方法を習得する。 埋没方法を習得する。 石英埋没材の特徴を理解する。				
9	下顎Br鑑付け①	実習	鑑付けの操作方法を習得する。 アンチフラックスについて理解する。 鑑付け時の炎の作り方を習得する。				
10	下顎Br鑑付け②	実習	鑑付けの操作方法を習得する。 アンチフラックスについて理解する。 鑑付け時の炎の作り方を習得する。				
11	下顎Br研磨	実習	基底面、連結部の研磨方法を習得する。 窓あけ部辺縁部の調整方法を覚える。				
12	下顎Br研磨	実習	基底面、連結部の研磨方法を習得する。 窓あけ部辺縁部の調整方法を覚える。				
13	下顎Br・21レジン前装冠のレジン築盛	実習	レジンの築盛手順を覚える。 オペークレジンの築盛方法を覚える。 レジンの重合方法を覚える。				
14	下顎Br・21レジン前装冠の形態修正	実習	レジンの築盛手順を覚える。 歯冠色レジンの築盛方法を覚える。 レジンの重合方法を覚える。				
15 (2/27)	下顎Br・21レジン前装冠の研磨	実習	レジンの研磨手順を覚える。 レジンの形態修正方法を覚える。				

科目名 (英)	矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	西山 輝
		授業形態	実習		有	開講区分	後期
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として矯正歯科技工所に勤務し技術を磨き、現在は矯正歯科技工所を経営して豊富な実務経験を有する講師が、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	装置製作に必要な4つの操作ができるようになるために、各種矯正装置の役割や分類、構造、製作方法の知識と技術を習得する。 ①線屈曲の技法 ②自在ロー付けの技法 ③レジンの築盛法 ④矯正用レジンの研磨法						
科目概要	矯正技工の基本操作を身につけ、動的治療後に用いられる、ホーレーの保定装置を製作する。						
到達目標	・矯正線の屈曲ができる。 ・矯正用レジンのふりかけ操作ができる。 ・矯正用レジンの研磨操作ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 オリジナル実習帳			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 実習帳だけでなく、教科書の該当部分を読んでおくとよい。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (1/16)	線屈曲トレーニング	実習	通称オバQと言われる図形に矯正用線を屈曲することに挑戦し屈曲の基本を身につける。
2	切歯唇側線の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
3	切歯唇側線の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
4	切歯唇側線の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
5	切歯唇側線の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ接歯唇側線を屈曲する。
6	単純鉤の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤を屈曲する。
7	単純鉤の屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤を屈曲する。
8	単純鉤・アダムのクラスプ屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせ単純鉤とアダムのクラスプを屈曲する。
9	アダムのクラスプ屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせアダムのクラスプを屈曲する。
10	アダムのクラスプ屈曲	実習	屈曲トレーニングの技法を応用し、作業用模型にあわせアダムのクラスプを屈曲する。
11	レジン築盛	実習	唇側線、維持装置を固定し、床部に矯正用レジンを築盛する。
12	レジン築盛	実習	築盛された床部をカーバイトバー等で形態修正する。
13	レジン研磨	実習	床部をペーパーコーン等で表面部分をおおよそ滑らかする。
14	レジン研磨	実習	表面部分がおおよそ平らになった床部をレーズを使い砂研磨する。
15 (2/13)	研磨・完成	実習	床部を仕上げ研磨し、完成させ提出する。

科目名 (英)	技工基本実習Ⅱ Basic Training of Dental technologyⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	限られた時間の中で課題が完成できるよう、反復練習を行い基本的な歯科技工技術を習得する。						
科目概要	有床義歯基礎実習における基本操作(盛る・削る・並べる)を通じて、歯科技工物を規定時間内で製作する。						
到達目標	・上下顎人工歯排列の基本操作を理解し、臼歯部の排列を行うことができる。 ・個人トレーの製作手順を理解し、製作できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点として評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	【事前学習】 実習帳だけでなく、教科書の該当部分を読んでおくとよい。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	個人トレー製作①	実習	全部床義歯の個人トレー製作を行う。 模型の設計、ブロックアウトを行う。
2	個人トレー製作②	実習	全部床義歯の個人トレー製作を行う。 トレー用常温重合レジンを用いて、レジン圧接を行う。
3	個人トレー製作③	実習	全部床義歯の個人トレー製作を行う。 トレー用常温重合レジンを用いて、レジン圧接を行う。
4	個人トレー製作④	実習	全部床義歯の個人トレー製作を行う。 圧接したレジンの形態修正を行う。また不足部分のレジン圧接や柄の取り付けを行う
5	個人トレー製作⑤	実習	全部床義歯の個人トレー製作を行う。 圧接したレジンの形態修正を行う。また不足部分のレジン圧接や柄の取り付けを行う
6	個人トレー製作⑥	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 トレーコンパウンドの取り付けを行う。
7	個人トレー製作⑦	実習	部分床義歯の個人トレー製作を行う。 トレーコンパウンドの取り付け・仕上げ完成までを行う。
8	部分配列模型を用いた上顎前歯配列練習	実習	1-U ・ 1-L を使用して上顎前歯の排列トレーニング
9	部分排列模型を用いた下顎前歯排列練習	実習	2-U ・ 2-L を使用して下顎前歯の排列トレーニング
10	部分排列模型を用いた上下前歯排列練習①	実習	1-U ・ 2-L を使用して上下顎前歯の排列トレーニング
11	部分排列模型を用いた上下前歯排列練習②	実習	1-U ・ 2-L を使用して上下顎前歯の排列トレーニング
12	部分排列模型を用いた上下前歯排列練習③	実習	1-U ・ 2-L を使用して上下顎前歯の排列トレーニング
13	下顎臼歯部排列	実習	部分排列模型(3U)を用いて、上顎臼歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
14	上顎臼歯部排列	実習	部分排列模型(3L)を用いて、下顎臼歯部の人工歯排列の方法をデモンストレーションをみながら実践する。
15	上下臼歯部排列	実習	部分排列模型(3U・3L)を用いて、4・5回目の実習で行った上下顎臼歯部の人工歯排列を行う。

科目名 (英)	歯型彫刻応用 I Advanced Training of Dental Carving I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、臨床事例と関連付けて補綴物作成に必要な歯牙形態について手技を指導する。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が歯牙形態の彫刻方法について授業を実施する。						
到達目標	・歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。						
	・見本模型などを見ないで、指定時間内に指定する歯種のデッサンができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 毎日決めた時間内にデッサンをして大まかな形を覚え、 彫る練習をすると比較的上達が早くなるので、推奨する。		
参考図書	別途授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/2)	上顎第一大臼歯の面取り彫刻①	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。				
2	上顎第一大臼歯の面取り彫刻②	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。				
3	上顎第一大臼歯の面取り彫刻③	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
4	上顎第一大臼歯の面取り彫刻④	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
5	上顎第一大臼歯の面取り彫刻⑤	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
6	上顎第一大臼歯の面取り彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の面取り彫刻のまとめとして最初から面取り彫刻を実施する。				
7	上顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻①	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。				
8	上顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻②	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。 教員の確認、修正を実施する。				
9	上顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻③	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。 教員の確認、修正を実施する。				
10	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻①	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
11	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻②	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
12	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻③	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
13	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻④	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
14	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻⑤	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
15 (11/20)	上顎第一大臼歯の彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の彫刻のまとめとして最初から仕上げ彫刻を実施する。				

科目名 (英)	歯型彫刻応用Ⅱ Advanced Training of Dental Carving	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が歯牙形態の彫刻方法について授業を実施する。						
目的	歯科技工物の製作に必須である、基本的な歯の形態を再現できる技術を習得する。						
科目概要	歯型彫刻に必要な器材の正しい使用方法を反復練習を通じて習得し、指定した歯種の面取りを手順に沿って規定時間内に製作する。						
到達目標	・歯の見本模型や実習帳を確認しながら、指定時間内に指定する歯種を彫刻することができる。 ・見本模型などを見ないで、指定時間内に指定する歯種のデッサンができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 毎日決めた時間内にデッサンをして大まかな形を覚え、 彫る練習をすると比較的上達が早くなるので、推奨する。		
参考図書	別途授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (11/21)	下顎第一大臼歯の面取り彫刻①	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。				
2	下顎第一大臼歯の面取り彫刻②	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモンストレーションを見ながら進める)。				
3	下顎第一大臼歯の面取り彫刻③	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
4	下顎第一大臼歯の面取り彫刻④	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
5	下顎第一大臼歯の面取り彫刻⑤	実習	切り出しナイフ、彫刻刀を正しく持つ、指の支点を作る。 デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 面取り彫刻をする。(デモを確認し、自分でも進めていく)。				
6	下顎第一大臼歯の面取り彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の面取り彫刻のまとめとして最初から面取り彫刻を実施する。				
7	下顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻①	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。				
8	下顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻②	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。 教員の確認、修正を実施する。				
9	下顎第一大臼歯のデッサンと仕上げ彫刻③	実習	デッサンを行い、形態の特徴を把握する。 形態の特徴を把握しながら見本模型から仕上げ彫りをする。 教員の確認、修正を実施する。				
10	下顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻①	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
11	下顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻②	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
12	下顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻③	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
13	下顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻④	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
14	下顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻⑤	実習	上顎第一大臼歯の面取り～仕上げ彫刻をする。 Step毎に教員の確認、修正を実施する。				
15 (2/21)	下顎第一大臼歯の彫刻まとめ	実習	上顎中切歯の彫刻のまとめとして最初から仕上げ彫刻を実施する。				

科目名	歯科技工実習総合Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛冶田 忠彦
(英)		Training of Dental TechnologyⅡ	授業形態	実習		有	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	各科目の学びをふりかえり、それらを活用した様々な歯科技工技術を習得する。						
科目概要	各科目で習得した知識や技能の確認を行う。課題製作を通じて、技術を向上させるために、学生自らも今後の課題を設定する。						
到達目標	・指定課題について、自ら課題を設定して課題に取り組むことができる。 ・課題終了後に到達度を記述することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学（医歯薬出版）			事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/1)	レジン前装冠模型製作	実習	副歯型式模型の製作手順を理解する。
2	上顎前歯のWax up	実習	上顎前歯のWax upを制限時間内に行う。
3	上顎前歯の前装部窓開け	実習	Wax upされた蝋型の前装部の窓開けを行う。
4	機械的維持装置の付与について	実習	機械的結合を理解し、維持装置の付与を行う。
5	埋没前準備～埋没	実習	完成された蝋型の辺縁部、接触点部の埋没前処理を行い、埋没を行う。
6	鑄造	実習	埋没された蝋型の鑄造を行う。
7	鑄造体の確認、適合	実習	鑄造体の状態確認と歯型への適合を行う。
8	部分排列の為の練習模型の咬合器装着①	実習	部分配列模型(7個)の説明とそれぞれの咬合器再装着のための準備を行う。 *既存プレート外し・模型調整・アンダーカット付与等
9	部分排列の為の練習模型の咬合器装着②	実習	前歯排列練習模型の咬合器装着を行う。 ①4L ②2Uと4L ③2Uと3L（シリコンバイト使用）④3Uと3L（シリコンバイト使用）
10	部分排列の為の練習模型の咬合器装着③	実習	前歯排列練習模型の咬合器装着を行う。 ④3Uと3L（シリコンバイト使用）
11	上下前歯排列練習	実習	上下前歯の排列デモンストレーションを見ながら、実践する。
12	上下前歯排列練習	実習	上下前歯の排列練習を行う。
13	上下無歯顎模型咬合器装着準備	実習	402Uの無歯顎模型を、咬合器に装着する準備としてスプリットキャスト形成を行う。
14	上下無歯顎模型咬合器装着	実習	402Uの無歯顎模型を、Wax咬合床を使用して咬合器に装着する。
15	上下無歯顎模型咬合器装着矯正用模型の調整	実習	404Lの無歯顎模型を、Wax咬合床を使用して咬合器に装着する準備をしておく。 矯正で使用する模型を調整しておく

科目名 (英)	歯の解剖学基礎Ⅱ Dental Anatomy-BasisⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教員歴も長い教員が国家試験の分析に基づき歯の解剖学の知識について分かりやすく授業を行う。						
目的	患者の体に馴染む、機能的な義歯を製作できる歯科技工士になるために、口腔機能、特に頭蓋骨の構造や咀嚼機能に関する基本的な知識を習得する。						
科目概要	頭部の骨や筋肉、顎関節、口腔内の器官(舌、唾液腺)について基本的な知識を理解する。						
到達目標	・頭部の骨(頭蓋骨)の構造を説明することができるようになる。 ・頭蓋骨の中で、歯科技工士にとって重要な咬合を構成する下顎骨、上顎骨の重要部分名称を説明することができるようになる。 ・下顎を動かす筋である咀嚼筋、舌骨上筋の種類とその作用、それぞれの支配神経を説明することができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)				事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/7)	頭蓋骨・下顎骨	講義	頭部の筋を理解する上で必要となる、頭蓋骨の分類と下顎骨の重要な部分名称を理解する。
2	上顎骨・硬口蓋	講義	上顎骨の重要部分名称を理解する。また、義歯が設計される硬口蓋の骨構成(上顎骨と口蓋骨)を理解する。
3	側頭骨・蝶形骨	講義	頭部の筋や顎関節を理解する上で必要となる、側頭骨と蝶形骨について理解する。
4	深頭筋(咀嚼筋)	講義	下顎の動きを理解する上で重要である咀嚼筋の種類と作用について理解する。
5	舌骨上筋	講義	下顎の動きを理解する上で重要である舌骨上筋種類と作用について理解する。
6	筋の作用・付着部位	講義	咀嚼筋・舌骨上筋の作用を理解し、下顎運動を理解する。 咀嚼筋・舌骨上筋の付着部位(下顎骨)を理解する。
7	浅頭筋(顔面筋)	講義	深頭筋違いを明確にし、浅頭筋(顔面筋)について理解する。
8 (11/25)	まとめ講義	講義	頭蓋骨・下顎骨、上顎骨・硬口蓋、側頭骨・蝶形骨、深頭筋(咀嚼筋)、舌骨上筋、筋の作用・付着部位、浅頭筋(顔面筋)についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、基本的な顎の運動や咬合器の種類について講義する。						
目的	生体として機能する歯や義歯を製作するために、顎や顎の動き、口に関する基本的な知識の習得をする。						
科目概要	下顎運動の概要を学び、歯科技工物の製作に必要な、咬合に関する基礎知識を理解する。						
到達目標	・顎口腔系の形態・機能について理解することができる。 ・下顎運動について説明することができる。 ・咬合器について使用目的・手順、調節方法、フェイスボウの取り扱いを理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (11/27)	顎口腔系の形態について	講義	物を食べる時に動く筋肉や顎の構造、運動について理解する。
2	顎口腔系の機能と下顎位について	講義	顎や口腔内の機能について理解する。 歯を失った場合の口の中の変化、顎の位置や特徴について説明することができる。
3	側方運動について	講義	食べ物を噛んでいる(横に動いてる)時の顎の動きや顎関節の形態について理解する。
4	前方運動について	講義	顎を前に出した時の運動や上下顎の前歯の動きについて理解する。
5	開閉運動と下顎の限界運動について	講義	口を開けたり閉じたりする時の顎の位置や動き、顎の限界運動について理解する。 入れ歯を作る際の中心や顎の高さを決定する時の顎の位置について理解する。
6	咬合器について	講義	咬合器を使用する目的や、構造、種類、特徴について理解する。
7	半調節性咬合器の取り扱いについて	講義	半調節性咬合器の構造や特徴、模型の装着方法について理解する。
8 (1/29)	後期定期試験とその解説	講義	今までの学びに対する理解度を設問を通じて確認する。

科目名 (英)	矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	河合良太・鍛冶田 忠彦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科医師であり、大学附属病院にて臨床経験を有する講師が、矯正の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、矯正歯科に必要な基本的な知識についてまとめ授業を行う。						
目的	矯正治療の概要及び歯科技工用器具と機械、材料や技工の手技についての知識を習得する。						
科目概要	不正咬合の種類や矯正治療の手順を知り、各種不正咬合の治療を円滑に行うために用いる主要な矯正装置の特徴や製作方法を理解する。						
到達目標	・矯正治療の概要を理解する。 ・不正咬合の治療において必要な矯正装置の種類、構成、特徴を覚える。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版株式会社）				事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。	
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/6)	矯正歯科技工学概説	講義	矯正治療の概要を理解し、本当に歯が動き乱れた歯が、綺麗になっていくことを確認する。
2	不正咬合 I	講義	生体に見られる正常な咬合や歯の位置異常について理解する。
3	不正咬合 II	講義	生体に見られる歯列弓の異常やアングルの分類について理解する。
4	矯正治療の進め方 I	講義	矯正治療の進め方について理解する。
5	矯正治療の進め方 II	講義	矯正治療の進め方について理解する。
6	まとめ演習 I	講義	担当: 歯科技工士専任教員 今回学んだ矯正治療について小テスト・まとめプリントを使用しながら振り返る。
7	まとめ演習 II	講義	担当: 歯科技工士専任教員 今回学んだ矯正治療について小テスト・まとめプリントを使用しながら振り返る。
8 (1/26)	定期試験に向けた準備とまとめ	講義	担当: 歯科技工士専任教員 総論全般を振り返る。 まとめを含めた7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	小児歯科技工学総論 Principles of Pedodontics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉山智美・田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教務経験も長い教員が国家試験を分析しわかりやすく授業を行う。初回の小児歯科の特性については、昭和大学小児歯科所属の歯科医師であり保育士の資格も有する杉山智美先生が担当する。						
目的	小児歯科で必要とされる「成長を予測した歯科技工装置」を製作するために欠かせない、子どもの成長発育に関する理論を習得する。						
科目概要	大人になったときに健全な永久歯列を獲得するためには乳歯が重要なポイントになることを、具体例を通じて理解する。矯正歯科との深い関連性がある。						
到達目標	・ヒトの歯と口腔に関する成長や発育について、説明することができる。 ・健全な永久歯列への生え変わりに、乳歯と永久歯列が大切であることを説明することができる。 ・7つの課題について、定義、その意義について説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版株式会社）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画				
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容	
1 (10/10)	小児歯科の特性	講義	担当講師： 小児歯科と小児歯科技工は他の診療科目と様々な面で異なることを紹介する。 乳歯の特徴と乳歯が大人の歯並びに影響するという、この科目の重要な考え方を理解する。	
2	歯・顎・顔面の成長発育①	講義	小児の成長発育の特徴について学ぶ。重要単語「スキャモンの発育曲線」が説明できることを目的とする。	
3	歯・顎・顔面の成長発育②	講義	小児の歯と歯列の成長発育について学ぶ。乳歯、永久歯の萌出時期・順序、乳歯の特徴を理解し、重要単語「ヘルマンの歯齢」が説明できる事を目的とする。	
4	「小児の歯・顎・顔面の成長発育」の復習	講義	小児の成長発育の学びをグループワークで復習し、クラス全体で知識を深め、重要単語を確実に理解する。	
5	ヘルマンⅠA期～ⅢA期の特徴	講義	ヘルマンⅠA期からⅢA期までの各期にみられる特徴を学ぶ。重要単語「顎間空隙」「霊長空隙・発育空隙」「ターミナルプレーン」「エスカレーター交換」「みにくいあひるの子」が説明できる事を目的とする。	
6	ヘルマンⅠA期～ⅢA期の復習	講義	ヘルマンⅠA期～ⅢA期の学びをグループワークで復習し、クラス全体で知識を深め、重要単語を確実に理解する。	
7	ヘルマンⅢB期の特徴	講義	ヘルマンⅢB期について学ぶ。重要単語「側方歯群交換」「リーウェイスペース」が説明できることを目的とする。	
8 (12/5)	ヘルマンⅢB期の復習～総復習	講義	ヘルマンⅢB期の復習含め、これまでの学びをグループワークで復習し、クラス全体で知識を深め、重要単語、乳歯の特徴、乳歯・影木裕氏の萌出順序を確実に理解する。	

科目名 (英)	国際教育 International education	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、世界の歯科技工事情について研修を実施する。						
目的	より広い視野を持てる歯科技工士を目指すために、海外の歯科事情や歯科業界の動向を認識する。						
科目概要	国内外における歯科医療や諸外国における歯科業界の動向について、オンラインでの研修を通じて学び記述することができる。						
到達目標	・海外の歯科事情を知ることができる。 ・最新の歯科業界の動向を通じて、自身のキャリア形成との関わりについて説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートを100点満点として評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 研修課題を確認し、事前に聞きたい事を調べてを研修に臨むこと。 【事後学習】 研修で学んだことを、レポートにまとめる。		
参考図書	プリント(必要に応じて配布)						
特記事項	レポートは提出期限を厳守すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
2	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
3	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
4	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
5	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
6	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
7	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				
8	国際教育研修	演習	研修を通じて世界の歯科技工事情について研修を実施する。				

科目名 (英)	デジタル歯科技工入門 Introduction to Digital Dental Technology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	古館 美弥
		授業形態	演習		有		
		時間数	45	授業回数	23	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 1 部	単位	1				後期
講師紹介	大学病院に勤務する歯科技工士が、現在の業界動向も交えたデジタル歯科技工の知識と基本的なCAD/CAM操作の授業を行う。						
目的	CAD操作をするために、必要なPCの基本操作を身につけ、画面を用いた歯の設計方法を理解し、デジタル歯科技術を習得する。						
科目概要	アナログ歯科技工とデジタル技工の違いを知り、印象採得から歯科技工物完成までの一連の流れを理解する。臨床現場で使用している歯科専用ソフトウェア(3Shape)を使用し、クラウンの設計(デザイン)の基本操作を行う。						
到達目標	・クラウン、フレームを設計することができる。 ・Word、Excel、PowerPointのいずれかを用いてレポートの作成をすることができる。 ・スクリーンショットの方法を習得しレポートの作成を行うことができる。						
評価方法	学期に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学期に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点満点で採点し、レポートを30点満点とし、それぞれを合算して算出する。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	特になし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、操作手順の復習を行う。 レポート作成に向けて、必要な資料を準備する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	設計の各ステップをスクリーンショットや写真に収めておくこと レポート作成時に資料として使用できる。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/7)	デジタル歯科について	演習	アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違いを説明する。 マテリアルとデザインのポイント①② パラメータ
2	3shapeの操作方法、スキャナー	演習	基本的なマウスの動かし方や、CADソフトの起動の仕方、デジタル技工の全容を学ぶ。
3	クラウンデザイン①	演習	3Shapeの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得する。
4	クラウンデザイン②	演習	3Shapeの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得する。
5	クラウンデザイン③	演習	3Shapeの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。 マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得する。
6	クラウンデザインまとめ	演習	習得した3Shapeの使用方法や彫刻ツールなどを駆使して制限時間内にクラウンの設計について 試験形式にて実施し、習熟度を確認する。
7	フレームデザイン①	演習	前回の授業の振り返りをする。 クラウンの設計からカットバック方法まで習得する。
8	フレームデザイン②	演習	前回の授業の振り返りをする。 クラウンの設計からカットバック方法まで習得する。
9	フレームデザイン③	演習	前回の授業の振り返りをする。 クラウンの設計からカットバック方法まで習得する。
10	フレームデザインまとめ	演習	習得した3Shapeの使用方法や彫刻ツールなどを駆使して制限時間内に前装冠の設計について 試験形式にて実施し、習熟度を確認する。
11	ミリングマシンとCAMソフト、プログラミング①	演習	CAMについて理解する。ソフトウェアの操作方法を習得する。 ミリングマシンの起動、データの配置などについて操作方法を習得する。
12	ミリングマシンとCAMソフト、プログラミング②	演習	CAMについて理解する。ソフトウェアの操作方法を習得する。 ミリングマシンの起動、データの配置などについて操作方法を習得する。
13	光学印象について	演習	光学印象の特性について理解する。
14	光学印象のクラウンデザイン①	演習	光学印象の特性を踏まえてマージン設定やクラウン設計方法を習得する。
15	光学印象のクラウンデザイン②	演習	光学印象の特性を踏まえてマージン設定やクラウン設計方法を習得する。
16	インプラント上部構造のデザインについて	演習	基本的なインプラントの上部構造の設計工程を講義で学ぶ。
17	インプラント上部構造デザイン①	演習	インプラント上部構造の設計方法を習得する。
18	インプラント上部構造デザイン②	演習	インプラント上部構造の設計方法を習得する。
19	インプラント上部構造デザイン③	演習	インプラント上部構造の設計方法を習得する。
20	【選択】補綴装置をデザイン	演習	多数歯欠損の症例のデモンストレーションを行う。クラウンデザインとは異なる部位のデザインを行う。
21	【選択】補綴装置をデザイン	演習	多数歯欠損の症例のデモンストレーションを行う。クラウンデザインとは異なる部位のデザインを行う。
22	デジタル技工まとめ	演習	授業の総復習と3Dプリンターについて理解する。
23 (12/2)	レポート作成	演習	デジタル技術を用いた補綴装置の製作手順、注意事項についてのレポートを作成する。 表紙には「題名、出席番号、氏名」を必ず記載する。提出方法は授業内で指示をする。 スクリーンショットの使い方を習得する。

科目名 (英)	臨床技術実習 Clinical Dental Technology	年次	1	選択必修科目	実務経験	科目責任者	吉澤 和之
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	45 <th>授業回数</th> <td>23<th>開講区分</th><th>後期</th></td>	授業回数	23 <th>開講区分</th> <th>後期</th>	開講区分	後期
単位		単位	3				
講師紹介	株式会社オーアラ(歯科技工所)の代表取締役であり、業界を代表する歯科技工士でもある講師が、豊富な実務経験を活かし、審美技工に必要な知識や理論について講義およびデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	各科目の学びをふりかえり、それらを活用した様々な歯科技工技術を習得する。						
科目概要	各科目で習得した知識や技能の確認を行う。課題製作を通じて、技術を向上させるために、学生自らも今後の課題を設定する。						
到達目標	・指定課題について、自ら課題を設定して課題に取り組むことができる。 ・課題終了後に到達度を記述することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学・有床義歯技工学 (医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	【事前学習】 シラバスを確認し、必要な準備をして授業に臨むこと。 【事後学習】 時間内に完成しなかったものについては、時間内に完成するように自主練習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	デモ及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/9)	臨床的模型製作①	演習	臨床的な歯列模型にて歯型可撤式模型の製作を習得する。
2	臨床的模型製作②	演習	臨床的な歯列模型にて歯型可撤式模型の製作を習得する。 作業用模型を完成させる。
3	下顎小臼歯CADデザイン①	演習	臨床的な歯列に調和する歯冠形態をCADで設計する。 前歯部カットバックについて理解する。 ＊実習で使用するフレームは教員のデザイン
4	上顎前歯歯型採得 ワックスパターンの適合	演習	CADで製作された前歯部のフレーム形態を模型に適合させる。
5	上顎前歯歯型採得 ワックスパターンの適合～埋没	演習	模型に適合させたフレームパターンを埋没する。 リン酸塩系埋没材について理解する。
6	下顎小臼歯ジルコニアクラウンの適合①	演習	外部から届けられたフルジルコニアのクラウンの適合確認をマイクロスコープ下で実施し、調整を実施する。
7	下顎小臼歯ジルコニアクラウンの適合②	演習	外部から届けられたフルジルコニアのクラウンの適合確認をマイクロスコープ下で実施し、調整を完成させる。
8	上顎前歯メタル調整①	演習	鋳造されたメタルフレーム適合確認をマイクロスコープ下で実施し、調整を実施する。
9	上顎前歯メタル調整①	演習	鋳造されたメタルフレーム適合確認をマイクロスコープ下で実施し、調整を完成させる。
10	上顎前歯 陶材焼付金属冠 ディギヤッシング～オベーク陶材染盛①	演習	メタル調整が終了したフレームをポーセレンファーマスにてディギヤッシングを実施し、表面の汚物を除去する。 オベーク陶材染盛を開始する。
11	上顎前歯 陶材焼付金属冠 ディギヤッシング～オベーク陶材染盛②	演習	前歯部陶材焼付金属冠のオベーク陶材染盛を完成させ、金属色の遮断ができています。
12	講師：吉澤先生 陶材焼付金属冠とジルコニアクラウンの製作方法についてレクチャー①	演習	臨床家である講師(吉澤氏)による陶材焼付金属冠の製作方法ならびにフルジルコニアクラウンの着色についてレクチャーを受け、理解を深める。
13	講師：吉澤先生 デンティン染盛・内部構造の製作①	演習	内部構造の製作を実施する。内部ステインの目的、取り扱い法について理解する。 デンティン陶材の染盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
14	講師：吉澤先生 デンティン染盛・内部構造の製作②	演習	内部構造の製作を実施する。内部ステインの目的、取り扱い法について理解する。 デンティン陶材の染盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
15	講師：吉澤先生 内部構造と内部ステイン①	演習	染盛した陶材にて指状構造を製作し、内部ステインも実施する。
16	講師：吉澤先生 内部構造と内部ステイン②	演習	染盛した陶材にて指状構造を製作し、内部ステインも実施する。
17	講師：吉澤先生 ラスター陶材 染盛・焼成	演習	ラスター陶材の特徴、染盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、染盛・焼成法について理解する。
18	講師：吉澤先生 形態修正	演習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解する。
19	講師：吉澤先生 表面仕上げ～グレージング～研磨	演習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
20	講師：吉澤先生 下顎小臼歯ジルコニアクラウンの製作 ① 表面ステイン	演習	ジルコニアクラウンのステインを実施し、削り出された色調を天然歯へと近づけていく。
21	講師：吉澤先生 下顎小臼歯ジルコニアクラウンの製作 ② 表面ステイン～完成	演習	ジルコニアクラウンのステインを実施し、削り出された色調を天然歯へと近づけるべく、細部まで再現する。
22	講師：吉澤先生 下顎小臼歯ジルコニアクラウンの製作 ③ 表面ステイン～完成	演習	ジルコニアクラウンのステインを実施し、削り出された色調を天然歯へと近づけ、ジルコニアクラウンの製作を完成させる。
23 (2/17)	講師：吉澤先生 陶材焼付金属冠とジルコニアクラウンの製作方法についてレクチャー②	演習	臨床家である講師(吉澤氏)による実習を受け、より臨床でのレクチャーを理解する。